

令和4年 10月 18日

関係各学校長 殿
関係各位

奈良県立青翔高等学校・青翔中学校
校長 河合 知子

「探究的な学びに関する授業改善シンポジウム」の開催について（案内）

晩秋の候、貴台におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育の充実・発展にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本校では、令和3年度に文部科学省より第Ⅲ期のスーパーサイエンスハイスクール研究開発校の指定を受け、「中高6年で拓くサイエンスイノベーターへの道 ～古都奈良からの挑戦～」を研究開発課題に掲げて2年目の取組を推進しており、その一環として、「探究的な学びに関する授業改善シンポジウム」を開催いたします。つきましては、探究的な学びとその評価の在り方に重点をおいた公開授業をオンデマンドで配信し、東洋大学 食環境学部 教授 後藤 頭一 氏に講演いただくとともに、学校設定科目「探究科学」における科学的リテラシーの向上とその客観的な評価を中心に、下記のとおりオンラインで協議いたします。ご多用とは存じますが、ご参加いただき、ご意見とご指導をたまわりますよう、ご案内申し上げます。

記

- | | |
|--------|---|
| 1 日 時 | 令和4年11月19日（土） |
| 2 実施形態 | Web(Zoom)によるライブ配信および授業動画視聴による参加 |
| 3 募集対象 | 県内外小・中・高等学校教員 大学教員 教育関係者 |
| 4 日 程 | 8:30～ 9:00 Web での教室入場完了 |
| | 9:00～ 9:10 開会挨拶 |
| | 9:10～ 9:40 授業動画視聴 |
| | 9:40～ 9:45 講師紹介 |
| | 9:45～10:45 後藤先生のご講演
「全校で取り組む探究的な学びと評価」 |
| | 10:45～10:55 休憩 |
| | 10:55～11:55 研究協議 |
| | 11:55～12:00 閉会挨拶 |

※ 公開授業一覧は別紙に記載します。

5 参加申込み方法

本校ホームページ (<http://www.e-net.nara.jp/hs/seisho/>) の「探究的な学びに関する授業改善シンポジウム」にあるイベント申込みフォーム「こくちーず」(右上のQRコード) から、令和4年11月18日(金)までにお申し込みください。定員の180名に達した場合、早期に申込みを締め切ります。

6 オンライン配信について

お申し込みいただいた方に「こくちーず」から接続先等のご案内を当方より差し上げます。

7 共 催 奈良県教育委員会



担当者

教諭 生田 依子

奈良県立青翔高等学校・青翔中学校

電話：0745-62-3951

FAX：0745-62-6662

【東洋大学 食環境学部 教授 後藤 顕一 氏によるご講演について】

講演テーマ 「学習評価の基本的な考え方と実践」

講演内容 数学や理科といった一般の教科での探究的な学びの実践とその評価について、また学校設定科目「探究科学」(理数探究)で、生徒の変容を客観的に見取ることを中心に、学習評価の基本的な考え方と実践についてご講演いただきます。



後藤顕一先生 略歴

1 所属 東洋大学 食環境科学部 教授

2 主要略歴

埼玉県立高等学校教諭、埼玉県教育委員会指導主事を経て、

2009年 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 総括研究官

2017年より 現職

2019年より 日本化学会 教育普及部門副委員長、学校教育委員会委員長

2020年より 東洋大学 教職センター長

2021年より 理科教育学会 理事

- 新学習指導要領作成委員 中学校 理科 高等学校 化学
- 高等学校「指導と評価の一体のための学習評価に関する参考資料」作成委員
- スーパー・サイエンスハイスクール運営指導委員を多数御担当
奈良県立青翔高校、大分県立大分舞鶴高校、大分県立日田高校、福岡県立鞍手高校、岡山県立玉島高校、香川県立観音寺第一高校、宮城県立多賀城高校、芝浦工大附属柏高校
- 令和2年度版 教育出版「中学理科」教科書 著者
- 令和3年度版 啓林館「理数探究基礎」教科書 著者

3 主要著書及び論文

◎著書

- 『すぐにできる! 双方向オンライン授業 Zoom, Teams, Google ソフトを活用して、質の高い講義と化学実験を実現』(共著), 化学同人, 2020
- 『資質・能力を育む高校化学—探究で変える授業実践』(共著), 化学同人, 2019
- 『中学校新学習指導要領の展開 理科編』(共著), 明治図書, 2017
- 『資質・能力』国立教育政策研究所編(編著), 後藤顕一他 東洋館出版社, 2016 など多数

◎論文

- 後藤顕一, 新教科「理数」, 新科目「理数探究基礎」「理数探究」の意義とこれからの期待すること - 「化学」とのつながり, 高大接続を踏まえて-, 化学と教育, 67 (6), 133-136, 2019 など多数

【公開授業一覧】

教科 科目	理数 理数数学Ⅱ	授業者	教諭 坂上 勝信	実施講座	高等学校第2学年
テーマ	絶対値のついた関数の定積分の問題について、ICTを活用した自己評価・相互評価を実施し、記述解答の変容を見取る。				
内容	積分法のまとめとして、絶対値のついた関数の定積分の問題を記述解答させる。絶対値のついた関数のグラフがかけているか、条件分けができていないか、公式が利用できているか等評価指標を示し、自己評価・相互評価をさせる。ICTを活用して相互評価を確認させ、類題を記述解答させ、再度自己評価をさせる。教員も生徒の記述の変容についてICTを活用して見取る。				

教科 科目	国語 国語特論	授業者	教諭 袴田 澄子	実施講座	高等学校第3学年
テーマ	評価規準の明確化、相互評価の導入、及び、ICT活用の振り返りによって、記述問題を解く抵抗感をなくし、自己採点ができるようにして、得点を上げる。				
内容	記述問題を解くにあたり、まず設問文をもとに評価規準を明確にすることで何を書けばいいのかをわかりやすくして書くことへの抵抗感をなくす。次に3、4人のグループで記述した解答（1回目）を互いに批評し、どこをどう工夫すればよりよくなるのかを助言し合う。さらにICTを活用し振り返り等を記入することで、自己評価し2回目に備える。そして、1回目の反省にもとづき2回目を書く。				

教科 科目	理数理科 理数生物	授業者	教諭 市橋 亮	実施講座	高等学校第3学年
テーマ	南極海のプランクトンを題材に旧口動物の分類と、生態系の変化について、ICTを活用した相互評価を実施し、考察記述の変容を見取る。				
内容	動物の分類において南極海のプランクトン標本を用いた実習を実施し、単元の学習の前後に「地球温暖化が進むと、南極海のオキアミとサルパのうちどちらが増えるか」と「地球温暖化が進むと、オキアミとサルパのどちらかの生態系が増る。そのときに、南極海の生態系のバランスはどうなると考えるか？」等について自分の意見をまとめ、他者と関わり、自分の考えを広げ深めることによって、課題を科学的に解決する。また、意見記述や共有の際にICTを活用するとともに、教員も生徒の記述の変容をICTを活用して見取る。				

教科 科目	学校設定科目 探究科学	授業者	教諭 生田 依子	実施講座	高等学校第1学年
テーマ	課題設定場面での相互評価とICT活用 -課題設定場面の先行研究の調査を踏まえた評価規準作成と生徒の変容-				
内容	課題設定場面において、先行研究の調査を踏まえた課題設定や検証計画のために新たな相互評価規準表を作成し、それを用いた生徒の学びの変容を、課題の設定・仮説の設定・検証計画の作成の記述、自己評価の変化および学習意識調査等から明らかにする。 評価規準および自己評価・他者評価の進め方は本校HPに別途掲載。				

【研究協議について】

パネリスト

東洋大学 食環境学部 教授 後藤 顕一 氏

高校教育指導係 係長 真井 克子 氏

奈良県立青翔高等学校 教頭 松山 吉秀

奈良県立青翔高等学校 公開授業の授業者 教諭 生田 依子 等

内容

探究科学・国語・数学・理科（生物）の授業の説明

後藤先生から指導助言

奈良県教育委員会から指導助言

登壇者・授業者による研究協議